

3. 環境配慮の分類と具体的な方策

鉄筋コンクリート造建築物のライフサイクルの様々な活動において、建築主、設計者・工事監理者、材料製造者および施工者が環境配慮を実施する場合、関係者の理解が得られやすいように、AIJ環境配慮施工指針では環境配慮の型を下記の4種類に分類している。

①省資源型

再生材料の使用や使用後にリサイクルに供することが可能な資材・材料を使用すること、あるいは材料を高強度化することで部材断面を低減することなど、天然資源の使用量を削減する環境配慮

②省エネルギー型

資材・材料の製造、移送・運搬、建築物の施工、建築物の供用、解体工事、廃棄物の処理等に要するエネルギーを削減するような材料、機器および

システムを用いる場合の環境配慮

③環境負荷物質低減型

地球環境、地域環境、作業環境など、様々な空間規模の環境に対して負荷要因となる地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生態系破壊、近隣環境公害（大気、土壌、水質の汚染など）、ヒートアイランド現象、室内衛生環境汚染などを生じさせる有害な物質（例えば、CO₂、NO_x、SO_xなど）を低減する環境配慮

④長寿命型

建築物およびその構成材の耐久性の向上に寄与し、鉄筋コンクリート造建築物の耐用年数を増大させることに貢献する環境配慮

ライフサイクルの各段階で考慮すべき環境配慮の型とそれに対応する具体的な方策の概要を表3から表7に示す。詳細な内容は、AIJ環境配慮施工指針を参照されたい。

表3 部材および構造体の設計における環境配慮

項目	環境配慮の型	方策
コンクリート強度	長寿命型	フレッシュコンクリートや硬化コンクリートの品質を損なわず、かつ過度に環境負荷物質の排出量が増加しない範囲で、コンクリートの設計基準強度を高める。
かぶり厚さ	長寿命型	コンクリートのかぶり厚さを適切に設計する。
プレキャスト化	省資源型 省エネルギー型 環境負荷物質低減型	現場打ちコンクリートの代わりにプレキャスト製品やハーフプレキャスト製品を用いることを検討し、環境改善が可能な場合は設計に盛り込む。